



視 察 報 告 書

令和6年1月30日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員

山本 良二

呉市議会議員

中原 明夫

呉市議会議員

光宗 等

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和 6年1月22日(月), 23日(火), 24日(水)

2. 調査項目

沖縄県 交通事業者運転手等確保支援事業について

沖縄県那覇市 沖縄修学旅行の現状と沖縄県の取組について

沖縄県糸満市 道の駅いとまんについて

3. 参加議員

山本 良二, 中原 明夫, 光宗 等

4. 随行者

なし

沖縄県

■調査項目

交通事業者運転手等確保支援事業について

・調査対応者

企画部交通政策課陸上交通班長 大城 博人

・調査期日

令和6年1月22日（月）午後3時～午後4時30分

・調査目的

人手不足や地方の過疎化でタクシー・バスの運転手不足が全国的に大きな課題となり、呉市でも同様であることから、解決策を探るため。

・調査内容

【沖縄県からの説明】

タクシー・バスの乗客は、コロナで一時的に落ち込んだものの、外国人観光客も増え、回復傾向にある。一方、タクシー運転手は令和3年度までの2年間で全国で約4万人減りました。背景には、運転手の高齢化やコロナが拡大した際に客が減り、やめていった人が増えたこと。人手不足の中でより賃金が高い仕事を選ぶ人が増えたことが原因と考えられる。

① 交通事業者運転手等確保支援事業

交通事業者の運転手等の確保のため、交通事業者が行う運転手等確保の取組に補助を行っている。補助対象経費は、就職説明会や求人広告等の取組に要する経費、運転体験会や職場体験会等の取組に要する経費、人材採用に係る助言等を依頼する外部専門家に対する謝金となっている。補助対象事業者は、路線バス事業者、タクシー事業者、トラック協会、航路関係事業者、航空関連事業者となっている。

② 沖縄県交通事業者人材確保支援事業

コロナ禍や原油価格・物価高騰等の影響を強く受けている乗り合いバス事業者及びタクシー事業者に対して、二種免許取得費用、特例教習に係る費用の1/4を補助している。（国が1/2）費用の相場は、大型二種免許が約40万円、普通二種免許が約20万円、特例教習が約20万円となっている。

・【質疑応答】

Q タクシー運転手の年齢構成は。

A 沖縄も年金受給者が多く高齢化している。

Q バス運転手の不足の度合いは。

A 非常に厳しい状況が続いている。嘱託化や時間給制を取り入れてしのいでいる状況である。

Q 就職説明会の取組の詳細は。

A ドラナビの東京、大阪、名古屋で行われる100社程度が参加するもので、令和5年9月末に大阪の沖縄のブースには40名程度が参加し、Iターンで西表島に2名就職した。

Q 二種免許取得費用の補助の実績は。

A バス事業者が約50名、タクシー事業者が約200名交付申請した。

・【呉市での展開の可能性】

呉市でもタクシー運転者の不足は続いており、行政の支援をする必要があると考えられ、これらの支援を取り組む必要がある。

那覇市（沖縄コンベンションビューロー）

■調査項目

沖縄修学旅行の現状と沖縄県の取組について

・調査対応者

沖縄コンベンションビューロー

総務部総務・経理課長 玉城 信治

企画・施設事業部プロジェクト推進室長 河村 雄一郎

国内事業部受け入れ推進課コーディネーター 西表 彩香

・調査期日

令和6年1月23日（火）午前10時～午前11時30分

・調査目的

修学旅行の誘致を推進することで 観光振興と呉市の活性化を目指して沖縄県の現状と取組について調査するもの。

・調査内容

【沖縄コンベンションビューローからの説明】

沖縄コンベンションビューローの事業概要の説明の後、沖縄修学旅行の現状と沖縄県の取組について説明があった。

沖縄県への修学旅行の入込数は、東日本大震災による旅行先の振り替え等の影響のあった平成23年度に校数、人数ともに過去最高となった。その後は、概ね横ばいで推移していたが、令和2年度及び3年度はコロナウイルス感染症拡大等の影響により大幅に減少した。令和4年度は、回復基調となっており、年度の実績が、1,482校、264,131人となっている。令和元年度に対しては、校数は61.4%、人数は64.3%になっている。令和5年度の修学旅行の入込状況は、10月から12月に集中し、コロナ前の8割程度まで回復している。沖縄修学旅行のおすすめシーズンは1月2月4月で①値段が安い②希望の日程で予約しやすい③冬ならではの体験ができることがあげられる。事前学習資料、安全・安心への取組などの説明もあった。

沖縄への修学旅行を検討している学校関係者の事前視察費用の一部を支援する模擬体験提供事業の説明があった。

沖縄修学旅行の特徴や魅力は、①地元とは異なる非日常体験②学習テーマを通じて地元と異なる視点から社会問題・国際情勢等が学べる③探求学習の受け入れや国際交流プログラムなどのバリエーションが豊富なことがあげられる。

今後のトピックとして、2023年ゆいレールが2両から3両に増両され輸送力が増える、2025年テーマパークのジャングリアが開業予定、2025年終戦80年をむかえ

る、2026年首里城正殿復元などがある。

最後に、沖縄修学旅行のモニターツアーについて説明を受けた。

・【質疑応答】

Q コンベンションビューローに対する県などからの補助はあるのか。

A 県などからの補助はない。収益事業や委託事業でまかなっている。

Q エシカルトラベルとは。

A 訪れる人とむかえる人が共につなぐ思いやりの旅、その土地の文化を深く知り、歩んできた歴史や産業に触れ、そこにある自然環境を慈しみ、地域の人々のぬくもりを感じるもの。

Q 修学旅行の閑散期は。

A 夏休み期間中が、修学旅行の閑散期になっている。

Q バスガイドは不足していないのか。

A 不足している。コロナでやめて補充が難しい。

・【呉市での展開の可能性】

呉市も修学旅行の閑散期に誘致するなど修学旅行の増加をめざした取り組みが必要だと感じた。修学旅行を検討している学校関係者の事前視察費用の一部を支援する模擬体験提供事業など取組むと増加につながるのではないかと思う。

糸満市（糸満市観光協会）

■調査項目

道の駅いとまんについて

・調査対応者

糸満市観光協会事務局長 上原 仁

・調査期日

令和6年1月24日（水）午前10時～午前11時30分

・調査目的

呉市には道の駅がなく、道の駅設置の要望も多くあり議会でも取り上げられていることから、来客、収益の高い道の駅いとまんの実態を調査するため。

・調査内容

【糸満市観光協会からの説明】

道の駅いとまんは、2.2haの敷地内に、JAのファーマーズマーケットいとまん、JFのお魚センター、障害者就労支援施設イノー、糸満市物産センターの4施設で構成しており、農産物・水産物・商工関連商品・飲食等を地元客と観光客に提供することと、地域の情報発信基地としての役割を担っている施設となっている。

構成4施設の代表者と糸満市を加えた構成員で道の駅施設管理組合を設立して、代表者からなる理事で理事会を構成して管理運営を行っている。4施設から負担金と、イベント広場使用料が主な収入で、糸満市観光協会へ運営を委託している。

道の駅いとまんの施設の取組経過の説明もあった。

・【質疑応答】

Q 道の駅の国への登録要件は。

A 24時間のトイレ設置と情報館の施設を備えること

Q 土地はどうなっているのか。

A ファーマーズマーケットいとまんと物産センターなどは市でお魚センターは漁業組合の土地になっている。

Q 来客者の地元の人と観光客の比率は。

A ファーマーズマーケットいとまんは7～8割は地元客で、お魚センターは観光客が主となっている。

Q 売上金額と来客数は。

A 全施設の売り上げは、年間23億2,607万円。来客数は、年間28.7万人で一日平均では7,792人となっている。

Q 納入農家数は。

A 1,001農家で、市外の方でも良いが、農産物は、糸満市で作ったものを納入している。

・【呉市での展開の可能性】

JAや漁協の協力があれば実現の可能性はあるが、呉市の現状を考えると糸満市の規模の施設は困難だと考えられる。道の駅の実現を推進するには農産物・水産物の確保が必要だと感じた。